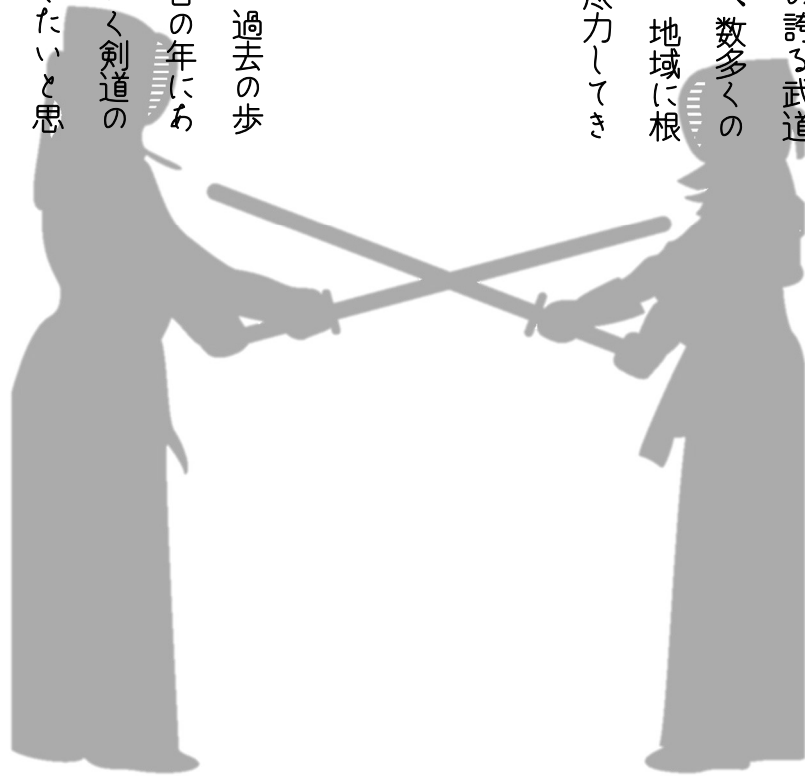


当剣道連盟は、本年、創立70周年という大きな節目を迎えました。剣道は、礼に始まり礼に終わる精神を育み、人としての成長や社会性を養う日本の誇る武道文化です。70年の歴史の中で、数多くの指導者が、その志を受け継ぎ、地域に根ざした活動と後進の育成に尽力してきました。

はじめに

連盟創立70周年記念誌では、過去の歩みを振り返り、記念すべき節目の年にあたり、次の世代へとつなげていく剣道の心とかたちを記録として残したいと思えます。伝統の重みを胸に刻みつつ、新たな時代にふさわしい剣道の姿を模索し、より一層の発展につながることを望んでいます。



きこう 連盟創立70周年記念品の揮毫について



剣道の指導という意味は、教授や伝授のように上から与える教育法ではなく、側面から効果的に助言によって学習者が、自ら「生み出す」教育と解されている。

剣道は、昔から師が学習者に対してあらゆる場面において、適切な刺激を与えて、自得開眼を主眼としているので、指導の意味を最もよく達成しているものと思う。

以上のことから「自得開眼」を選定しました。

参考資料 中野八十二 東京教育大学(現筑波大学) 名誉教授、日体大教授

越谷市剣道連盟 顧問 中野茂

中野茂氏／元越谷市教育長。越谷市体育協会会長(令和7年度より越谷市スポーツ協会)。父は当剣道連盟初代会長中野實氏で、同氏は当連盟の創生期の事務局を担った。



越谷市剣道連盟
会長 石川 雅 久

新たな歴史を築いていく

越谷市剣道連盟創立70周年おめでとうございます。

この度、高田新次会長の後、越谷市剣道連盟会長に就任いたしました石川雅久です。連盟創立70周年という記念すべき年に、このような重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

私は、小学校4年生から剣道を始め、今日まで連盟を発展させてくださった先生方、諸先輩方のお陰で剣道が続けることができました。これまでの事務局長としての経験を活かし、会員の皆様と共に、連盟の更なる発展に尽力したいと考えております。

越谷市剣道連盟は、埼玉県剣道連盟のAランク加盟団体であり、会員数も多い団体です。幼児から高齢者の幅広い年代の方々、その中で剣道の道を極めた方から健康のために稽古に励む方まで、様々な会員が剣道の魅力を感じられ、それぞれの目標に向かって稽古を楽しんでいます。

このような素晴らしい剣道を、会員の皆様一人一人のご協力によって、更に発展させていきたいと考えております。

しかしながら、少子高齢化や多様なスポーツの普及など、剣道を取り巻く環境は決して楽観視できるものではありません。会員の皆様には、連盟の活動への積極的な参加、剣道の普及活動へのご協力など、様々な面でご支援いただければ幸いです。

皆様と共に、越谷市剣道連盟の新たな歴史を築いていけるよう、精一杯努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

伝統をしっかり引き継いでいく



越谷市剣道連盟創立70周年
記念行事実行委員会
委員長 小川 俊 文

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎え、記念誌を発刊いたしました。

記念誌部会の尽力のもと「躍進の70年 剣道連盟の歴史と未来」と題して、編集が進められました。創立70周年を祝うとともに、剣道の歴史、文化、そして未来への展望など、様々な企画が掲載されています。このたびの記念誌は、創立50周年記念誌以来の発刊であり、大変意義深いものだと思います。発刊にご協力いただいた諸先生方や関係各位に感謝いたします。

さて、剣道連盟が70周年を迎えるなか、私は60年近く連盟に関わっており、一層感慨深い思いです。剣道連盟の今日があるのは、たくさんの先生方や先輩方が支えてくれた賜であり、これからは我々から後輩にしっかりと引き継いでいくことが大切だと考えます。最近の大会成績を見ますと少年の部が特に優秀で頼もしく思います。

剣道は剣道具を着用し竹刀を用いて一対一で打突しあう運動競技とみられますが、心身を鍛錬し人間形成を目指す武道です。競技として上位を目指しつつ武道として自らを鍛えていく日本の伝統文化です。特色として老若男女問わず同じ空間で相手を尊重しながら稽古ができます。体格や体力が劣っていても高齢になっても工夫次第で上達することが出来ると言われています。この素晴らしい剣道が受け継がれ、連盟も発展していくことを願っています。

結びに、記念誌部会のみならず大会部会、祝賀会部会、記念品部会、事務局、役員の方々等剣道連盟70周年にかかわったすべての方々に感謝申し上げ、あいさついたします。

裾野は広く、頂きはより高く



越谷市剣道連盟
顧問 中 野 茂

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎えることに、心からお慶びを申し上げます。

「裾野は広く、頂きはより高く」これは埼玉県剣道連盟のスローガンです。剣道愛好者をひとりでも多く誕生させたいという願いです。本市剣連では「底辺の拡大」を合ことばに励んできましたが、意図するところは同じです。

終戦後、昭和26年の日米講話条約（サンフランシスコ条約）の締結されるまで「武道」は全面禁止されました。

本市に剣道愛好者の層が厚いのは、戦前より地域に根ざしたこの武道が錬心館山口道場（山口亮一館長）や出羽、明信館道場（高橋忠作先生）他に越谷警察署長（関口馬二郎先生）、教育関係者（秋山長作・鈴木重次・中野實・豊田正長・鋪野猷爾・大塚史郎各先生）へと継承されたからです。

戦後、剣道は日本撓競技連盟（笹森順造会長）から出発しました。本市では山口亮一先生、錬心館道場からスタートした越谷市剣道連盟は道場が手狭となり、近くの越ヶ谷小学校講堂へ移り益々愛好者（会員）が増えていったことは、ご承知のとおりであります。

一方、昭和30年代から40年代の地下鉄の相互乗入れや武蔵野線全線開通による東京のベッドタウン化により人口が急増し、市内中学校・高等学校への剣道部の創立と剣道の各種審査会・大会が励みとなり、剣道愛好者も急増し、併せて「越谷に武道場」の建設要請が高まり、1987年（昭和62年）総合体育館内に念願の武道場が誕生となったわけです。

普段、何気なく稽古している武道場は、既に37年を経っていますが、先人の方々の努力の賜であります。

令和4年6月現在、埼玉県剣道連盟に登録されている本市の4段以上の会員は271名であり、特に女性剣道の普及発展と小学生の剣道指導の強化稽古会の継続が際だっています。

結びに、越谷市剣道連盟創立70周年を契機に剣道の歴史・文化を継承し、未来への展望を持って、スポーツ振興と市民の健康増進に御尽力くださることをお願い申し上げ、益々のご発展と関係各位のご活躍をご祈念申し上げあいさついたします。